

# PART 7

～裏雑誌に掲載～

# 1週間後の日曜日

下着姿を撮影されてしまった栞は、しばらく落ち込んでいたが、特に変わらない日常にほっとし、少しずつ立ち直っていた。

一方、カメラマンの須藤から連絡を受けた結花・由愛・奈々の3人は、スタジオに向かう……

「これが裏の会員誌のグラビア。一般会員向け」「可愛いお尻とおっぱい、よく撮れてるじゃない」「乳首とアソコ隠してもらつてよかつたね」「かえつてエロ雑誌っぽいんだけど（笑）」

ミスS学園・涼川菜(18)

100%処女の優等生を調教中！



「可愛いお尻とおっぱい、よく撮れてるじゃない」「乳首とアソコ隠してもらつてよかつたね」「かえつてエロ雑誌っぽいんだけど（笑）」

「あなたこそ、この子で稼ぐ気まんまんじゃない」「アイドルにしてから堕とした方が高く売れますよ？」「ふざけないで。シナリオどおり露出狂に堕とすのよ」「……お嬢様は、父上よりも非情ですな（笑）」「あなたこそ、この子で稼ぐ気まんまんじゃない」

# その日の夜

勉強をしていた栞に一通のメールが届く  
差出人は「須藤哲也」

嫌な予感を覚えながら、栞はそのメールを開いた・・・

『涼川栞さま。次回撮影の打合せをしたいので、次の番号に  
すぐ電話ください。拒否したら添付の写真を公開します』

『その日の夜、須藤からのメールが届く。『次回撮影をしたい。拒否したらこの画像を公開するよ』』

『『『きやあ！』』』『悲鳴をあげ、あわてて電話をかける』

『……須藤です。栞ちゃんかな？』

『涼川です！』』『こんな写真、公開しないで下さい！』

『そう言われても、これが商売だからなあ。きみ、いいケツしてるねえ(笑)』

『次回撮影つて、もう撮影は終わつたはずです』

『今日は終わりつて言つただけ。今回の撮影は終わつてないよ。君がぐずぐずして時間切れになつてさ』

『そ、そんな！』とにかく嫌です。写真を公開されても結構です！』』（お願ひ、あきらめて……）

『そうかい？……なら、この写真もいいんだな？』

『次

のメールが着信、添付ファイルを開く栞』

「きや、きやあつ！」

「この写真も公開しようかな？ 栞ちゃんのまあるいお尻が全国にお披露目されちゃうけど？（笑）」

「絶対に駄目！ ど、どうして……！」

「後ろのスクリーンに隠しカメラがあつてね」「騙すなんてひどい……！」

「撮影方法には従うつて言つたろ？ あと、約束に違反したら、裸の写真を公開してもいいんだよな？」

「え、だけど、そんな……！」

「この後、君がどうしたか覚えてるかな……！」

《さらにメールが着信、添付ファイルを開く栄》

「ひつ！ い、いやあああ」

「全裸につこりダブルピース、お毛々も丸見え！  
とりあえず君の学校の校門前に貼つておこうか？」

「……お願いです、許してください……」

「やつと分かつてくれたかな。念のため動画も送るか  
ら、確認してみたら？」



『到着した動画を開く栞。全裸姿のアップが上から下へと舐めるように映し出される。音声も再生』

『S学園2年1組の涼川栞、18歳です。すっぽんぽんで撮影、最高でーす！』

「露出狂宣言の動画付きなら、騙されて撮られたって言い逃れも難しいだろうねえ(笑)」「……分かりました。また撮影に行きますから……」(なんて卑劣なの！でも逆らつたら……)



「分かればいいんだよ。ちなみに隠しカメラは俺しか知らないから、君のお友達はこの画像見てないよ」「ありがとうございます。絶対に見せないで下さい」(恥辱に震えながら、少しだけ安堵する栞)

「次回の撮影は、明日の朝から夕方までだよ」「え、明日は学校ですけど……」

「学校で撮影するんだよ。衣装は、上は紺ブレザー、下は赤のミニスカートで。今、着て見せろよ」

# PART 8

～自撮り生配信～

『抵抗したが結局は逆らえない栞。今その恰好になるよう指示され、超ミニ姿を鏡に映して自撮り映像送信』

「こんな短いスカート、無理です！ ちょっとでも捲れたら見えちゃいます！」

「それくらい普通だろ？ それに、赤スカートも制服として認められてるんだろう？」

「それはそうですけど、こんな格好……」

「栞ちゃんはケツがでかいから後ろが心配だな。今度は膝立ちになつて鏡に後ろ姿を映してみな」

「……分かりました」（逆らつたら裸の写真をネットに流されちゃう……）



「あはは、ちょっと前かがみになるとパンツ見えちゃうな。今日は純白か（笑）」

「きやあ！ やつぱり無理です、こんなの……」

「へえ、すっぽんぽんの写真を学校に貼り出してあげた方がいいかな？」

「いや！ そんなことしないで！」

「それじゃあ、逆らつたお詫びでもしてもらおうか。そのまま、パンティを下ろすんだ！」

「そ、そんな……」



「う、うう……」（恥ずかしくて死にそう）

「お、可愛いお尻が見えたな（笑） けど、なんで目をつぶつてるわけ？」

「お願いです、これで許してください」

「駄目だ。目をつぶつた罰として、スカートを腰まで捲り上げろ。パンティは足首に絡ませとけ」

「……で、できません」

「1分以内に脱がないとばらまくよ。カメラ目線で、笑顔でな」

《露出してしまった尻を手で庇う桀》

「……これでいいですか？」（ひいい）

「おい、なんで手で隠してるんだ？」  
「だつて、これ以上は……」

「それに笑顔でって言ったよな？」  
「こ、こんな格好で笑えません！」

「何度も言わせるな。ほら、早く！」

「…手を離して、笑えば終わりですね？」

「ああ、だから早くしろ」

『丸出しの尻を晒し、膝ががくがく震える栞』

「こ、こんなの恥ずかしいです……」

「やつぱりできるじゃないか。笑顔が固いけど、まあいいだろう」

「もう、終わりでいいですよね？」

「最後に、カメラに向かつて挨拶してもらおうか。ぶりぶりケツ振つて、栞のお尻、いかがですか? つてな」「……どうしても、ですか?……」

「もちろん。もうスカートも脱いじゃえよ。セリフはこんな感じでな……」

「……」(ひどい、一体どこまで私を辱めるつもり?)



『タブレットの中でも栞がぎこちなく尻を振っている』

『S学園2年1組、涼川栞ですか？…』

いかがですか？…』

【由愛】「あはは、栞ちゃんがストリップ生配信！」

【奈々】「生尻。ふり。ふり。振っちゃって！（笑）」

【結花】「何百人もの男に見られてるって知つたら、どんな顔するかなあ？（笑）」



【須藤】「S学園の数学の先生もVIP会員らしいぞ」

「担任の先生にも教えてあげようよ」

「お気に入りだから、絶対喜ぶよね！（笑）」

『あの……もう終わっていいですか？』

「駄目よ。もつとエロく腰振らせて！」

「はいはい……『もつと腰を突き出せ』つと（笑）』

「最後にファンの皆様にご挨拶もー』

『尻振りの後、ぎこちない笑みで必死に股間を隠す栞』

『えっと、あの……明日は、学校で撮影です。とっても  
楽しみです。よろしくお願ひします』  
（楽しみの訳ないじやない。須藤さん、ひどい……）

『生中継映像を見て盛り上がる女子達』

【由愛】「今日も工口配信、お疲れ様！（笑）」

【奈々】「学校で撮影、どんなのかなー？」

【結花】「じつかし、下半身丸出しでよく笑えるわねえ」



# PART 9

～ミニスカ登校～

『通学途中の住宅街で待ち合わせた二人』

「洋」「それで、お願ひつてどういうこと?」

「うん、あのね、私の写真を撮つてほしいんだけど  
「へえ、自分からモデル志望? いいけど、また何か  
に応募するの?」

「そういうわけじゃないんだけど……あの、恥ずかし  
い写真を撮つてほしくって」(いやあー)

「へ?……もしかして、この前の撮影で下着とか撮ら  
れて興奮しちゃつたってこと? (笑)」

「う、うん」(やだ、そんな目で見ないで)

「またスタジオで下着姿でも撮影したいの?」

「ううん!……通学途中とか、学校の中とかで

「え、野外露出系?(笑)……ま、いいけど。ただ、盗  
撮つて疑われても困るから、ここで宣言してよ?」

「宣言つて!……どうすればいいの?」

「そうだな、スカート捲つて笑顔で言つてよ。涼川栞  
は外でエツチな恰好するのが大好きです、つて

「そ、そんなの無理よ!」

「じゃあ俺は撮影はしないよ」

『周囲を見回す栞。人がいないのを確かめ、おずおずとスカートの裾を持ち上げ、パンティが少し露出』

「こ、これでいい?」

「え、もつとはつきり見させてくれないと」

「そんな……人が来たら隠せないよ」

「大丈夫、周囲の様子は俺が見てるから。早くしないと人が多くなるよ」

「分かったから……」



『ぐつと持ち上げ、パンティの半ばが露出』

「もつとがぱつと捲つてよ。あと、笑顔もないと信じられないな」

「そ、そんな――」

「ほら、早くしないと!」

「ひ、ひどい――」

『恨めし気な顔で、スカートをさらに捲り上げる栞』

「いいねえ！ クラス委員の優等生が朝の通学路でパンティ丸出し！（笑）』《連写を浴びせる》

「もう、いいでしょ！」

「何言つてんの？ その恰好のまま、笑顔で宣言してくれないと」

「！」（嫌よ。でも、撮つてもらわないと、裸の写真がばらまかれちゃう）



《しばらくためらつてから、作り笑いを浮かべて命令されたセリフを口にする栞》

「……涼川栞は、外でエッチな恰好するのが大好き！ 今日は、写真部の皆さんにお願いして、沢山撮つてもらいます。とつても楽しみです！」

（いやあ、これじゃあ変態じやない！）

「よくできましたあ。今の、ばつちり録画したからね。後で俺たちを訴えたらばらまくよ？」

「分かつたから、早く駅に行こうよ」

「そうだね、次はどこで撮ろうかな♪」

「……お願い、絶対に人に見つからないようにして」

『駅への途中の公園でブランコに座るよう指示。ローラングルでカメラを構える洋』

「そんなに下から撮らないでよ」  
「何言つてるの、恥ずかしい写真撮つてほしいんで  
しょ？」

「それはそうだけど……」

「それじゃあ、ブランコこいでみてよ。足をまつすぐ  
伸ばしてね」

「う、うん……」

「カメラ目線で笑顔もよろしくね」

「もう、分かつたから、早く撮つて」



「お、いいねえ、パンチラ可愛いよ」《連写する洋》

「人が来たら困るから……もうこれくらいで」

「まだまだ。それじゃあ今度は、足を大きく開いて！」

「そ、そんな！」

「いやならいいよ。じゃあね」（ははは、やめられないとんだよね？）

「ちょっと待つて！……これでいい？」

「もつとがばつと！ 男の子にパンティ見られて嬉しい、って笑顔でね」

「！」（それじゃあ馬鹿みたいじゃない）

「おお、いいねえ！ 桜ちゃんが公園でおっぴろげ！」

(笑)

「もう、いいでしょ……」

「それじゃあ動画モードにするから、カメラに向かって話しかけてよ

「話しかけるって、何を？」

「露出して楽しいって気持ちを、につこりとね」

「宮田くんつ…………ごめん、分かったから…………えーっと、涼川栞、朝の公園でパンティ露出ブランコ、気持ちいいでーす！」（もう嫌……）

「はい、ばっちり撮れましたー（笑）」

『最寄り駅に着いた一人。栞の超ミニスカートが周囲の注目を集める。洋は背後に立つて撮影』

（やだ、みんながさりげなく私の方を見てる……隣のお姉さん、軽蔑した視線……）

「背後の女子生徒」「ちょっとあれ、短くない？」  
「膝上30センチありそう」「すごいねえ（笑）」

「ちょっと栞ちゃん、鞄でお尻隠さないで」「みんな見てるし。ここでは許して」

「見られるの好きなんだろ？ 偶然めくれるくらいいじやん？ 手を下ろして」「そ、そんな……」

（…）

「ミスカートからこぼれる太もも、エロイね。あつちのホームの男たち、完全に見てるよ(笑)」「変なこと言わないで」

「背後に男子生徒達」「おい、あれ、短いな」「ちよつとめくれたらパンチラするよな?」「どうせ見せパンだろうけどな」

(やだ、後ろからエッチな目で見てる……)

『通過の急行電車が入つてくる。巻き込まれた空気が強い風となり吹き上げた』

「きや、きやああつ！」

「いいねえ！ クラス委員の優等生が朝の通学路でパンティ丸出し！（笑）』《連写を浴びせる》

「やだ、撮らないで……」

「おお、すつげえ！」「パンチラどころかパンモロ（笑）」「あれ、見せパンじゃないな（笑）」「『電車が通過する間、風がスカートを捲り続ける。前を庇うのに精いっぱいでお尻を晒す栞』

「やだ、なにあの子」「見せつけてるよね」「信じられない」

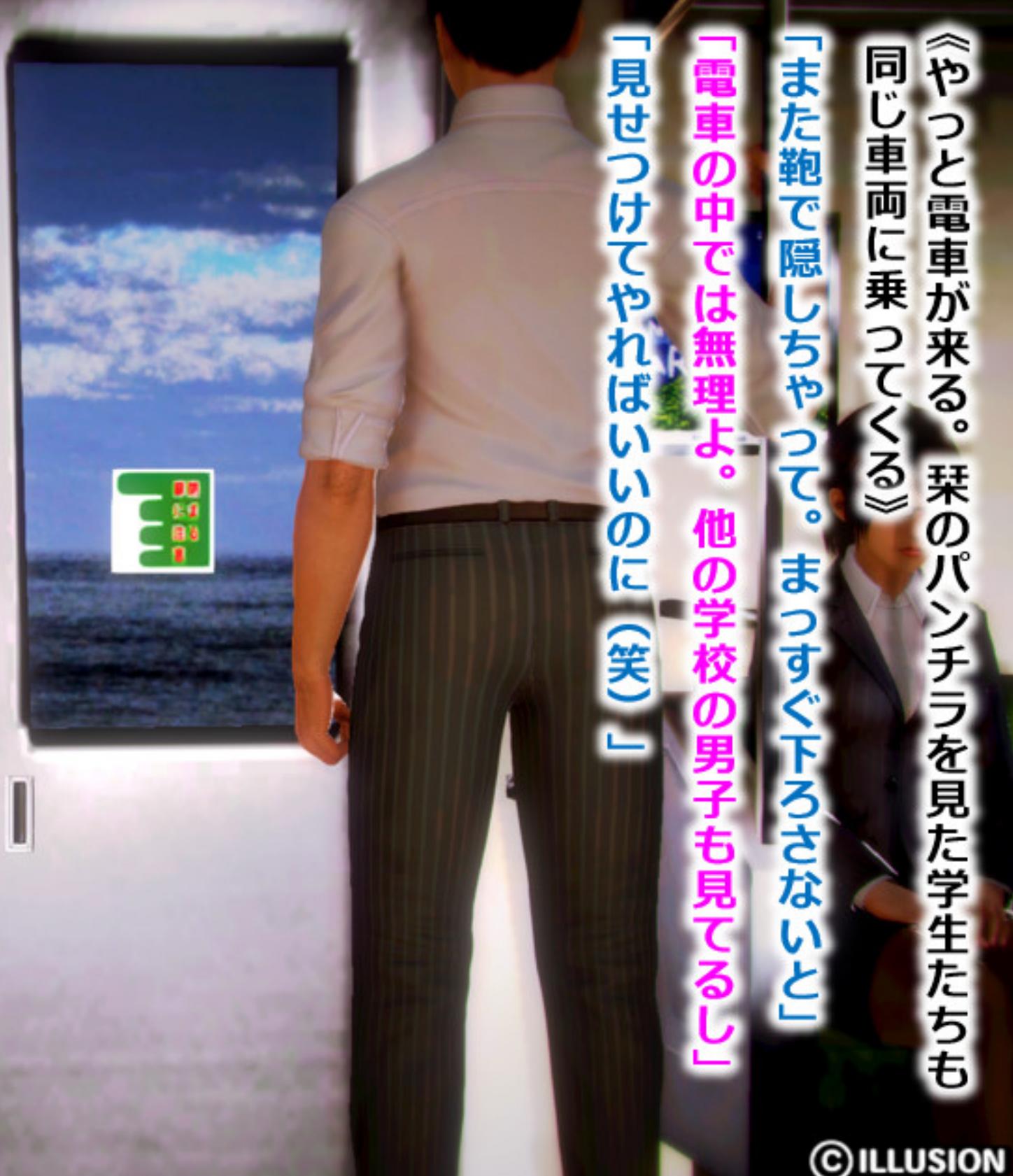


『やつと電車が来る。栞のパンチラを見た学生たちも同じ車両に乗ってくる』

「また鞄で隠しちゃつて。まっすぐ下ろさないと」

「電車の中では無理よ。他の学校の男子も見てるし」

「見せつけてやればいいのに(笑)」



「さっきのパンモロすごかつたよな」「水色パンティ、かわいいな」「まじめそうなのにミニスカだな」「タiapなんだけど、声かけようかな」「S学園のお嬢様だぞ、無理だろ」「隣の奴、彼氏かな」  
（全部聞こえてるんだけど・・・宮田くんが彼氏のわけないでしょ！）

## 使用したプログラム・素材等

- 本作品は、ILLUSIONの「ハニーセレクト～コンプリートパック～」を使用して作成しています。[\(http://www.illusion.jp/preview/honey\\_party/index.php\)](http://www.illusion.jp/preview/honey_party/index.php)
- また、イリュージョン公式ページに投稿のキャラデータやシーンデータを活用しています。その他、個人HPに掲載の服なども使用しています。各作者の方に感謝いたします。
- 本作品のコンテンツの著作権は ILLUSIONに帰属し、販売等は認められていません。転載・販売等は行わないようお願いします。